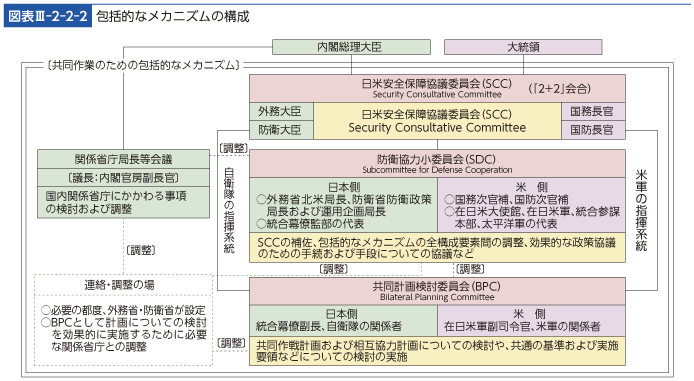
○　包括的なメカニズム

平素において「指針」のもとでの日米共同作業を行うためのものであり、自衛隊と米軍だけでなく、両国政府の関係機関が関与して構築される。包括的なメカニズムでは、わが国に対する武力攻撃や周辺事態に円滑かつ効果的に対応できるよう、共同作戦計画や相互協力計画についての検討などの共同作業を行う。

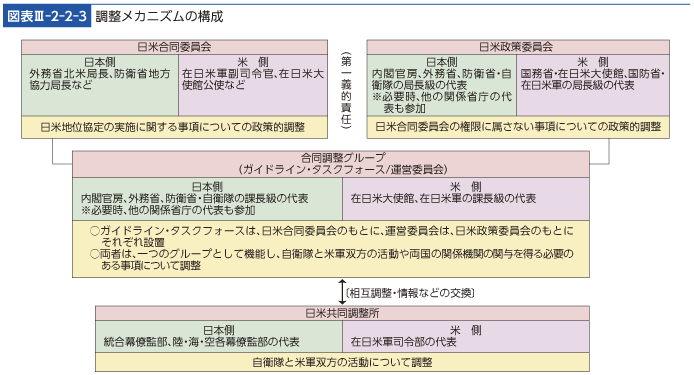
**参照**図表III-2-2-2（包括的なメカニズムの構成）



○　調整メカニズム

わが国に対する武力攻撃や周辺事態に際して両国が行うそれぞれの活動の調整を図るため、平素から構築しておくものである。

**参照**図表III-2-2-3（調整メカニズムの構成）



**ウ　「指針」の実効性を確保するための施策**

（ア）「指針」の実効性確保のための措置

「指針」の実効性を確保するためには、平素からの取組をはじめ、武力攻撃事態や周辺事態における日米協力について、法的側面を含めて必要な措置を適切に講じることが重要である。このような観点から、「指針」における共同作戦計画や相互協力計画の検討を含む日米間の共同作業を、平素から政府全体で進めることが必要である。

これを踏まえ、周辺事態における日米協力の観点から、99（同11）年の周辺事態安全確保法、00（同12）年の船舶検査活動法などの法制整備が行われた。

また、武力攻撃事態等における日米協力の観点からは、有事法制整備の一環として、04（同16）年に米軍の行動の円滑化のための措置が講じられた。